

建設局

一般会計要求総額

54,628,115千円

(対前年度 1.7%)

< 要求の基本的考え方 >

歩いて暮らせる快適で美しい街の創造のため、バリアフリー化、地下歩行空間の整備等をすすめる。

安全・安心に暮らせる快適な街の実現のため、災害対策や水とみどりの保全等を行う。

北国らしいゆたかな暮らしの実現のため、地域実情に応じた除排雪に取り組む。

(単位：千円)

市民の主体的な地域づくりの支援	一主要事業一 地域と創る冬みち事業推進	要求額 127,141〔管理部〕
障がい者の自立支援の促進	誰もが歩きやすい 歩行空間ネットワーク創出事業	1,392,000〔土木部〕
水とみどりの保全・育成と創出	創成川親水緑地整備事業 多自然川づくりの推進	390,000〔土木部〕 156,000〔下水道河川部〕
災害に強い安全なまちの整備	災害に強い道づくり事業(橋りょうの耐震化)	818,000〔土木部〕
将来を見据えた魅力ある都市の整備	札幌駅前通地下歩行空間整備 創成川通アンダーパス連続化整備 交通結節点改善事業(JR白石駅周辺地区)	2,182,000〔土木部〕 1,408,000〔土木部〕 842,000〔土木部〕
その他	デジタル道路台帳図整備 水防センター建設	159,577〔管理部〕 98,000〔下水道河川部〕

：新規事業

● 都心の魅力と活力の向上

札幌駅前通地下歩行空間整備

四季を通じて安全で快適な歩行空間を確保し、都心全体の魅力と活力を向上させるため、地下鉄「さっぽろ駅」と「大通駅」を連結する地下歩行空間の整備を引き続き実施します。平成21年度は、地下通路本体の構築及び建築・設備工を行います

事業費 2,182,000(20年度予算額 2,734,000)
達成目標
《地下歩行空間(地下歩道)の整備》
H22 供用開始

創成川通アンダーパス連続化整備 創成川親水緑地整備事業

創成川通のアンダーパスが平成21年3月に供用開始となります。平成21年度は、地上部道路の整備を行うとともに、河川・緑地空間において、創成川の歴史的価値を重んじつつ、水とみどりを生かした新たな空間(河川部)整備を進めます。

事業費 1,798,000(20年度予算額 5,044,000)
達成目標
《アンダーパス連続化》《地上部道路部分整備》
H20 供用開始 H22 完成
《都心部における水とみどりの空間》
H18 - H22 1.9ha

● 市民自治の実践による雪対策の推進

地域と創る冬みち事業推進

地域住民・除雪事業者・行政の三者による話し合いにより、地域の実情に応じた除排雪等を行い、市民の理解や満足度を高めます。

また、この事業の成果は、次期札幌市雪対策基本計画に反映させます。

事業費 127,141(20年度予算額 111,000)

主な内訳：委託料 112,632

事務費 14,509

達成目標

《参加町内会数》

H18 H22 総数 560 町内会

21年度実施予定数 80 町内会



● 誰もが歩きやすい歩行空間ネットワーク創出

誰もが安心して歩けるよう、重点整備地区における歩道のバリアフリー化を進めるとともに、新たに3地区の「あんしん歩行エリア(*)」を形成するなど、安全で歩きやすい歩行空間を創出します。

*あんしん歩行エリア

市街地内で交通事故の発生が多い地区を対象に、歩行者や自転車などが安心して通行できるように、地域主体で道路整備や交通安全活動などを重点的に行うエリア。

事業費 1,392,000(20年度予算額 1,094,000)

主な内容：歩道のバリアフリー整備、交通事故対策など

達成目標

《重点整備地区バリアフリー化率》

21年度効果

「札幌市交通バリアフリー基本構想」の見直しを受け、重点整備地区を拡大し、新たな目標値を設定する。

《あんしん歩行エリアの形成数》

H18 9エリア H22 12エリア

21年度効果 +1エリア(累計10エリア)

● 多自然川づくりの推進

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境および多様な河川景観を保全創出する河川整備を行います。

事業費 156,000(20年度予算額 203,000)

主な内訳：河川整備費 156,000

達成目標

《多自然川づくり整備延長》

H18 4.7km H22 5.5km

21年度効果 +0.3km

● 橋りょうの耐震機能の強化

大規模な災害時に救急・消火および緊急物資の輸送などの重要な役割を担う緊急輸送路の機能を確保するため、橋りょうの耐震補強を行います

事業費 818,000(20年度予算額 908,000)

達成目標

《耐震補強実施済橋りょう数(累計)》

H18 26橋 H22 45橋

21年度効果 +5橋(累計39橋)

● 交通アクセス性の向上

交通結節点改善事業 (JR白石駅周辺地区)

JR白石駅周辺において、鉄道により分断されている市街地の一体化や、交通結節点へのアクセスの向上、公共交通機関の乗り継ぎ利便性の向上を図るため、自由通路、駅前広場などの整備を実施します。

事業費 842,000(20年度予算額 582,000)

主な内容：自由通路の整備(20年度より継続)

達成目標

《JR白石駅自由通路の整備》

H22 供用開始

<主な見直し項目(効果額)>

・一般事務費の削減	45,411
・施設運営管理費の見直し	18,452
・サービス水準等の見直し	6,832
・堤防使用料の改定	563